

年少児保育案

はな組 男児9名 女児10名 計19名
担任 武田 あさ子 坂元 久美子

1 幼児の実態

子どもたちは入園当初、初めての集団生活ということもあり、母子分離が難しい場面や初めてのことに戸惑う姿が見られた。保護者と連携しながら、少しずつ園生活に慣れていく中で、友達のしていることに興味をもち、「今日は〇〇して遊ぼう」「〇〇君と一緒に遊ぶ」など、主体的に友達にかかわろうとする姿が見られる。最近では、友達とのかかわりが広がってきたからこそ、「今日は〇〇して遊ぼう」と思っているも他の友達が使っていたり、「〇〇君と一緒に遊ぶ」と思っているも断られてしまったりと、うまくいかないこともあり、戸惑う姿が見られる。教師が、互いの思いを整理したり、代弁したり、必要な言葉を知らせたりしながら、友達とかかわりを広げ深めているところである。また、保護者にも子どもたちの様子を伝え、家庭での対応の仕方や受け止めるときの姿勢などをお願いしたり、家庭での様子を教えてもらったり、家庭と幼稚園で協力して子どもの育ちを見守ることで、安心して幼稚園生活を送れるようになってきている。

室内では、自分のイメージしたものを形にしようと空き箱やトイレットペーパーの芯を組み合わせて遊んでいる。ヒーローやヒロインになりきるために新聞紙やビニール袋を使って剣やマント、ドレスをつくらうと、教師に手伝ってもらいながら新聞紙やビニール袋を使って遊ぶ姿も見られる。ままごとコーナーでは、役割分担は難しい場面も見られるが、一緒に家族ごっこをしているという意識をもちながら、お父さんやお母さんなど、なりきって遊んでいる。また、教師の真似をして絵本の絵を見せながら友達に自分なりの読み聞かせをする姿も見られる。最近、自分でつくったものと友達のつくったものをつなげたり、合体させたりして、遊ぶ姿も見られるようになってきている。年上の友達の保育室に招待されて、お店屋さんで品物が並んでいることにわくわくしたり、教師と一緒にお金をつくってから買い物に行くことを知ったりしながら、買い物を楽しんでいる。

園庭では、自分たちの手で地面に線を引いて電車の線路に見立てたり、水をもって来て砂に混ぜて団子やチョコレートをつくったり、山をつくったりするなど、自分たちで遊びを工夫する姿も見られる。固定遊具では、できるようになった友達の姿を見て真似しようとしていたり、教師に手伝ってもらいながら難しいことにも挑戦したりする姿が見られる。また、固定遊具を家族ごっこの家やコンサート会場、映画館などに見立てて遊ぶ姿も見られる。室内でつくった衣装を着て、ラジカセとカセットテープを用意し、音楽に合わせて踊ったり、映画の主人公になりきって演技したりして、それぞれのイメージで遊びを楽しんでいる。園庭にあるヌスビトハギを自分の洋服にくっつけて家族のお土産にしたり、様々な色や形の落ち葉や石を見付けて持って帰ったりとこの時期ならではの自然にも親しんでいる。飼育小屋のウサギにエサをあげたり、一人一鉢で育てているクロッカスの成長の様子を見たり、お世話をしようとする姿も見られる。

このように、友達とのかかわりを楽しみ、友達と一緒にいることのよさや楽しさを知るようになった子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、自分らしさを発揮しながら友達とかかわろうとする姿が見られる。友達と一緒に役になりきって遊ぶ姿やいろいろなものとかかわりや新しい遊びの展開を今まで以上に求める姿を大切にしたい。

役になりきって遊ぶ遊びでは、見立てはそれぞれに違いはあるが一緒に衣装を着ていることや同じ場を共有していることで友達のよさや一緒にいる楽しさを感じることでできる遊びとして大切にしたい。友達と共有するものが多くなるにつれていざこざもあるが、教師が互いの会話をつなげたり、必要に応じて言葉を補ったりして、相手の気持ちを知るきっかけにしたい。また、自然物を遊びに取り入れて遊びを進めていく姿についても、この時期ならではの自然に親しみをもつことができる遊びとして大切にしたい。

固定遊具の遊びでは、初めてのことにも挑戦しようとする姿や友達がきっかけとなって何度も挑戦する姿が日常生活の中においても自信につながっていく遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、友達と遊びを共有することのよさや楽しさを感じることに繋がっていくだろう。また、友達と一緒に進める中でうまくいかないもどかしさを感じながら、自分と友達の違いを知り、調整していくことも知っていくきっかけとなると考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 好きな遊びを見つけて楽しむ中で、友達や先生とのかかわりを楽しむ。
- 身近な自然に触れて楽しく遊んだり、自然物を遊びに使ったりする。

(2) 内容

- いろいろな遊びに興味をもち、同じ遊びが好きな友達とかかわることを楽しむ。
- 家族やテレビ、絵本などの登場人物になってごっこ遊びを楽しむ。
- 遊びの中で先生や友達に自分の思いを伝えようとする。
- 素材や遊具に親しみながら、自分なりのイメージを表現しようとする。
- 友達といろいろな人やものになったり、歌ったり、踊ったりして楽しむ。
- 身の回りの自然に興味をもち、落ち葉や木の実などを見つけて遊ぶ。
- 身の回りのことや生活に必要なことをできるだけ自分でしようとする。
- 食事に関心をもち、先生や友達と言葉を交わしながら楽しく食事をする。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 好きな遊びを見つけて、友達や先生とかかわりながら自分のイメージを伝えようとする。
- いろいろな遊びに興味をもち、身の回りの素材や遊具、自然に親しみをもつ。

(2) 内容

- 同じ遊びが好きな友達とかかわりながら、自分のイメージや思いを伝えようとする。
- 身近な素材や遊具、自然に親しみながら、自分なりのイメージを表現しようとする。
- 身の回りのことなど自分のことはできるだけ自分でしようとする。

(3) 保育に当たって

ア 人とかかわり

- 一緒に遊んでいる友達に、自分の思いを伝えながら遊びが楽しく展開できるように教師も仲間に入って互いの会話をつなげたり、必要に応じて言葉を補ったりして、楽しい雰囲気をつくるようにする。
- 自分のしたいことやしてほしいことなどを教師に話そうとする姿を認め、友達と一緒に遊びながら自分の思いや感じたことを友達に話し、イメージが重なる楽しさを味わえるようにする。
- 友達とかかわる中で、自分の思いをうまく言葉にできないときは、教師が互いの気持ちを代弁したり、「貸して」「仲間に入れて」「ちょっと待ってね」などの必要な言葉を知らせたりする。
- 衣服の着脱、道具の片付けなど身の回りの始末を自分でやろうとする姿を認めながら、必要に応じて手伝ったり、励ます言葉掛けを行ったりする。

イ ものとかかわり

- イメージするものをつくることができるように、材料を準備しておいたり、子どもと相談したりしながら適切な材料を選んだりする。
- 友達とイメージするものが異なったときは、教師が間に入り、互いの思いを聞き、互いの思いをつなぐ。
- 道具を正しく使ったり、友達と交代で使ったりできるように、必要に応じて言葉掛けを行う。

ウ 自然とかかわり

- 子どもが見つけてきた木の実や落ち葉などを一緒に見て、子どもの気付きに共感したい。
- 見つけた秋のものを遊びに取り入れようとする姿を大切に、つくり上げた満足感に共感したり、つくりたいもののイメージに合う材料を用意したり提案したりする。
- クロッカスの成長や開花を楽しみにしながら、自然への関心を高められるような言葉掛けを行う。

(4) 保育の流れ

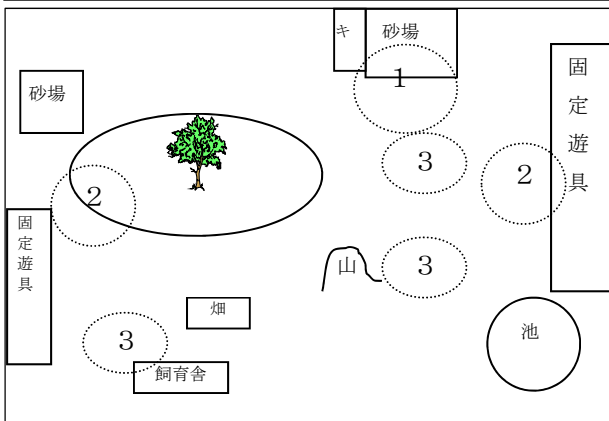
時刻	子どもの活動	教師の援助と留意点
8 : 5 5	☆ 登園する。 ・ あいさつをする。 ・ 傘を立てる。(雨天時) ・ 靴を履き替える。 ☆ 登園時の活動をする。 ・ シールをはる。 ・ 連絡帳を出す。 ・ タオルを掛ける。 ・ ランドセルや帽子などをロッカーにしまう。 ・ コートを掛ける。	○ 一人一人の子どもたちと笑顔であいさつを交わしたり、楽しく会話したりしながら、今朝の子どもたちの健康状態を把握する。 ○ 教師に進んであいさつをしたり、前日の出来事を話そうとしたりする姿を認め、楽しく一日が始まるようにしたい。 ○ 登園時の活動は、自分でしようとする姿を認め、必要に応じて手伝ったり見守ったりしながら自信や意欲が高まるような言葉掛けをする。 ○ ごっこ遊びでは、好きな役になりきって遊ぶ姿に共感しながら、教師もお客になるなど一緒になって遊ぶようにする。
9 : 1 0	☆ 好きな遊びをする。 ・ ごっこ遊びをする。 ・ つくって遊ぶ。 ・ 砂や水を使って遊ぶ。 ・ 体を動かして遊ぶ。 ・ 自然と触れ合う。 ・ 絵本を見る。 など	○ 異年齢の活動に参加し、楽しい雰囲気の中で自分たちもしてみたいという気持ちになるような環境づくりや援助をする。 ○ つくる遊びでは、子どもたちが好きな形をつくる姿を見守り、出来上がったものを教師に見せながらイメージを伝える姿を大切にしたい。 ○ 友達に自分の思いを伝えながら楽しく展開できるように、互いの会話をつなげたり、必要に応じて言葉を補ったりする。 ○ 砂や水を使った遊びでは、砂と水を混ぜた感触を子どもたちと一緒に味わいながら、ケーキや団子、コーヒーなど子どもたちがつくりたいものを一緒につくって楽しみたい。 ○ 体を動かす遊びでは、様々な固定遊具に挑戦しようとする姿を認めながら、教師も体を動かして遊ぶ楽しさを味わうようにする。 ○ 自然に親しむ遊びでは、園庭の様々な自然物を一緒に探しながら生き物を大切に育めるような言葉掛けをする。
1 0 : 1 0	☆ 片付ける。 ☆ 帰りの支度をする。 ・ 用便をすませる。 ・ タオルと連絡帳をしまう。	○ トイレ・手洗いうがいや帰りの身支度を進んで行う姿を認めていきたい。 ○ 片付けは、がんばって取り組めるように子どもたちを励ましながら教師も率先して楽しく取り組む姿を見せ、片付けの大切さや片付けた後の気持ちよさを味わえるようにする。
1 0 : 3 0	☆ 降園時の活動をする。 ・ 指遊びをする。 ・ 歌を歌う。 ・ 絵本を見る。 ・ 先生や友達と一日を振り返る。 ・ 次週のことについて知る。	○ 帰りの支度は、自分でしようとする姿を認め、必要に応じて手伝ったり見守ったりしながら自信や意欲が高まるような言葉掛けをする。 ○ 降園時の活動では、一緒に歌を歌ったり、絵本を見たりして楽しく過ごせるようにする。また、次週の予定を話題にして、次週への期待をもって降園できるようにする。
1 1 : 0 0	☆ 降園する。	

(5) 予想する遊び (○：子どもの姿 ◆：教師の援助)
 〈園庭〉

1 砂や水を使って遊ぶ

- 自分なりの線路をかいて電車を走らせる。
- 砂の山をつくる。
- 砂を皿に盛って、ごちそうをつくる。
- 砂を型に入れ、それをひっくり返してケーキをつくる。
- つくったものに葉っぱや木の実を使って飾り付けをする。
- 砂に水を加え、手で触ったり、バケツの中で混ぜ合わせたりして、その感触を味わう。
- 水の中に木の実や落ち葉、花を浮かべてスープをつくる。
- つくったものを並べてパーティーを開く。
- ◆ 遊びの中で、ものの取り合いなどがあった場合には、互いの話を聞き、それぞれの思いが伝わるように話をしながら、必要な言葉を伝えていく。
- ◆ 砂や水の感触を十分に楽しみながら、つくりたいものをつくって楽しむ姿や子どもたちのイメージに共感し、教師も客になって遊びに加わりながら、友達とイメージが重なるような言葉掛けをする。
- ◆ 自然物を使って遊ぶ姿を認め、様子を見ながら身近にあるものを使えないかどうか提案したい。

キ 砂場道具 (スコップ、バケツ、皿、スプーン、型、じょうろ など)



2 体を動かして遊ぶ

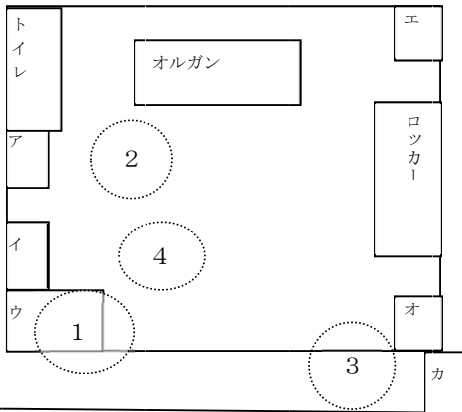
- 音楽に合わせて踊ったり、役になりきって遊んだりする。
- ぶらんこやすべり台、雲梯、鉄棒、木製アスレチックなど、固定遊具を使って遊ぶ。
- 築山に登ったり、滑って降りたりする。
- ◆ 場の空間を確保したり、必要な道具をそろえたりしておく。
- ◆ 教師も遊びに加わりながら、体を動かして遊ぶ楽しさやできるようになった喜びに共感する。
- ◆ 遊具の安全な使い方や並んで順番を待ったり、交代で使ったりすることなど、機会をとらえて話をしていく。
- ◆ 必要に応じて固定遊具の使い方について確認し、安全面に配慮する。

3 自然に親しむ

- 木の実や落ち葉を拾う。
- ヌスビオトハギを洋服にくっつける。
- ウサギやニトリなどを見たり、餌をあげたりする。
- ◆ 秋の自然物を集める姿を見守り、見付けた喜びに共感する。
- ◆ 落ち葉と一緒に集めながら、葉の色の変化を感じたり、葉の様々な色や形に気付いたりする姿を大切にしたい。
- ◆ 教師も一緒に動物に餌をあげながら、子どもたちのつぶやきに共感し、動物への親しみを育めるような言葉掛けをする。

1 ごっこ遊びをする

- 自分がつくったものを身につけて、ヒーローやヒロインになりきって遊ぶ。
- お母さんやお姉さんなど自分の好きな家族の役になりきって遊ぶ。
- ごちそうを並べ、客に振る舞う。
- エプロンなど遊びに使うものを身につけて遊ぶ。
- お店屋さんに出掛け、買った物を使って遊ぶ。
- ◆ 遊びに必要なものを子どもたちが使いやすい場所に用意しておく。
- ◆ 子どもたちのなりきっている姿に共感しながら、教師も客になるなどして遊びに加わる。
- ◆ 遊びの中で、いざこざなどがあつた場合には、互いの話を聞き、それぞれの思いが伝わるように話をしながら、必要な言葉を伝えていく。



- ア 空き箱、ロールペーパー芯、セロハンテープ、新聞紙、ガムテープ、ぬり絵 など
- イ 水栽培のヒヤシンス・クロッカス、絵本、ソフト積み木
- ウ ぬいぐるみ、ままごと道具、エプロン など
- エ 車、変身マント、紙袋 など
- オ 水槽（金魚）
- カ クロッカス、じょうろ

2 つくって遊ぶ

- 新聞紙で剣やマント、ドレスをつくる。
 - 空き箱を組み合わせて自分の好きな形をつくる。
 - 自分がつくったものを使って、友達と遊ぶ。
 - ソフト積み木を自分のイメージした形に組み合わせる。
 - 自分の好きなぬり絵を選んで色を塗り、それを使って遊ぶ。
 - 粘土を使って、自分のイメージしたものをつくる。
- （雨天時）
- ◆ 子どもたちが自由につくって楽しめるように、使いやすい場所に素材や用具を準備しておく。
 - ◆ 自分のつくりたいもののイメージを伝えようとする姿を受け止め、できないところを手伝うなどして、つくり上げた喜びを共に味わうようにする。
 - ◆ つくったものを使って友達と遊ぶ姿を見守り、それぞれのイメージを伝える姿を受け止め、友達と遊ぶ楽しさを味わえるような言葉掛けをしたい。
 - ◆ ソフト積み木では、楽しみながら自分のイメージしたものをつくれるように、場所を確保したり、使い方を必要に応じて話したりする。
 - ◆ ぬり絵など、室内での遊びを楽しめるように環境を整えておく、必要に応じて机を出すなど配慮する。
 - ◆ 粘土ができるような空間を確保したり、机を出したりする。

3 金魚にえさをあげる
クロッカスに水を掛ける

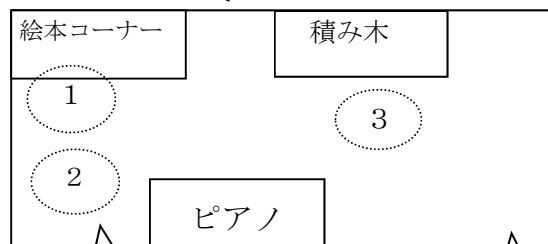
- 金魚の様子を眺める。エサをあげる。
- クロッカスを見たり、水を掛けたりする。
- ◆ 教師も一緒に餌をあげながら、子どもたちのつぶやきに共感し、生き物への親しみを育めるような言葉掛けをする。
- ◆ 自分たちで育てている植物を大切にしようとする姿に共感しながら、成長を楽しみにできる言葉掛けをする。

4 絵本を見る

- 好きな絵本を持ってきて見たり、先生に読んでもらったりする。
- 先生の真似をして友達に読み聞かせをする。
- ◆ 絵本を楽しむ姿を見守りながら、必要に応じて絵本の扱い方についても話していく。

2 お店屋さんに出掛ける

- お客さんとして年上の友達が開いているお店屋さんに出掛け、買い物ごっこをする。
- 年上の友達が開いているお店屋さんごっこを見る。
- 年上の友達が遊んでいる遊びに参加する。
(雨天時)
- ◆ 子どもたちが客になっている姿に共感しながら、教師も客になるなどして楽しみながら、客としてのマナーを知らせていく。
- ◆ 遊びの中で、ものの取り合いなどがあった場合には、互いの話を聞き、それぞれの思いが伝わるように話をしながら、必要な言葉を知らせていく。



3 ごっこ遊びをする

- 年上の友達の遊びを見たり仲間に入れてもらったりして楽しむ。
- 積み木やマットを使って、ヒーローごっこの基地に見立てて遊ぶ。
- お母さんやお姉さんなど自分の好きな家族の役になりきって遊ぶ。
- ごちそうを並べ、客に振る舞う。
- エプロンなど遊びに使うものを身に付けて遊ぶ。
- ◆ 年上の友達のお店屋さんごっこに興味をもつ子どもたちの姿を大切に、一緒に客になって仲間に加わる。
- ◆ 遊びに必要なものを子どもたちが使いやすい場所に用意しておく。
- ◆ 子どもたちのなりきっている姿に共感しながら、教師も客になるなどして遊びに加わる。
- ◆ 遊びの中で、いざこざなどがあった場合には、互いの話を聞き、それぞれの思いが伝わるように話をしながら、必要な言葉を伝えていく。

1 絵本を見る

- 好きな絵本を持ってきて見たり、先生に読んでもらったりする。
- 先生の真似をして友達に読み聞かせする。
(雨天時)
- ◆ 絵本を楽しむ姿を見守りながら、必要に応じて絵本の扱い方についても話していく。